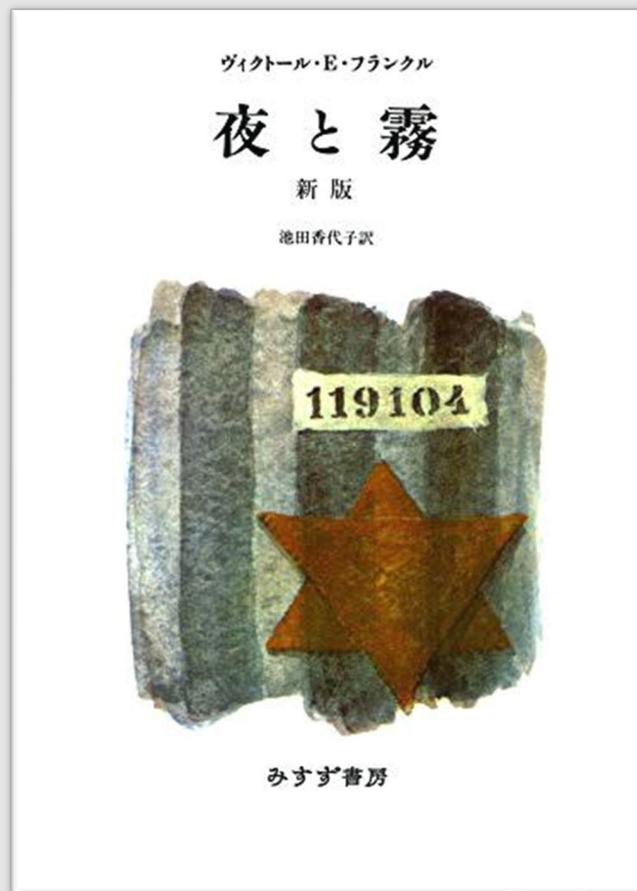




人は何故信仰の対象を
つくるのか

『夜と霧』を読む
西山 珠理

着想



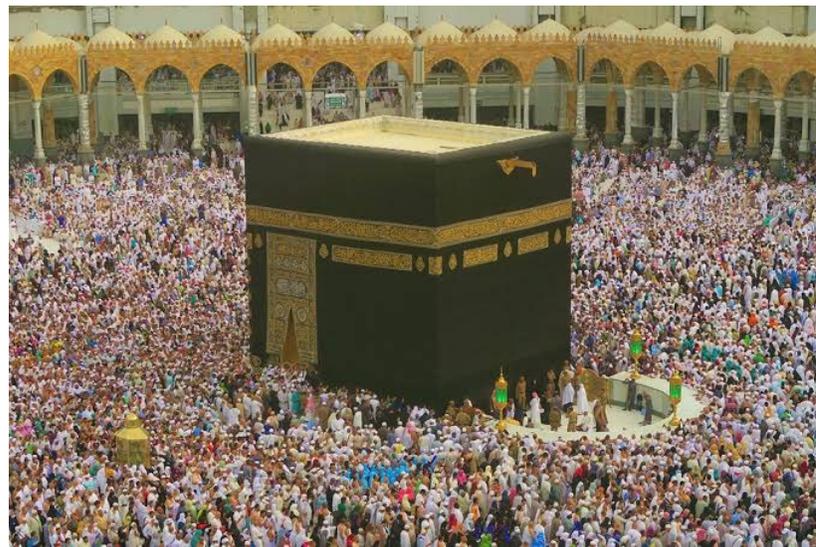
ヴィクトール・フランクル『夜と霧』

「耐えがたい苦痛に耐えることしか
できない状況にあっても、人は内に秘めた
愛する人の面影を精神力で呼び出すこと
により、満たされることができなのだ。」

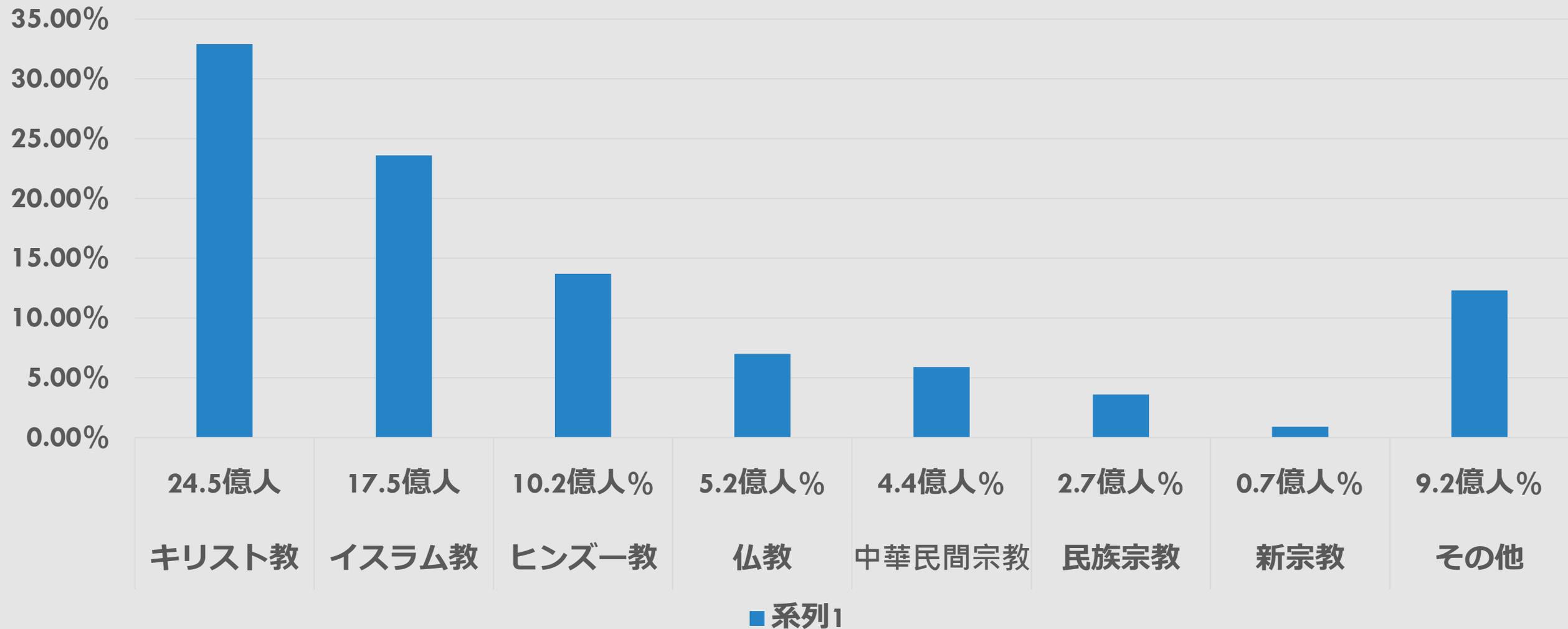
神様 イスラム教

儀式 イエスキリスト

信仰



世界宗教人口



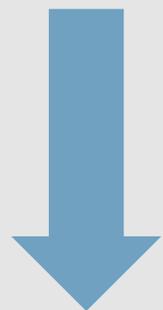
出典:東京基督教大学,国際宣教センター (2017)

信仰をはじめめるきっかけ

- ① 「死への恐れ」からくる信仰
- ② 世代間で継承される信仰
- ③ 孤独からくる信仰

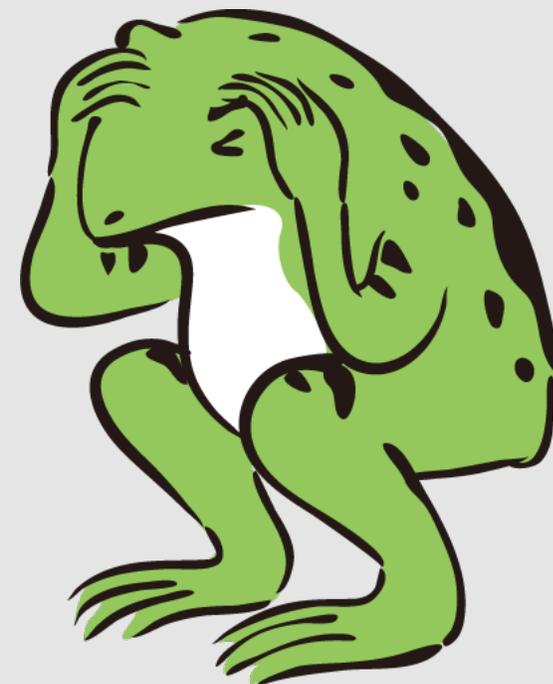
① 「死への恐れ」 からくる信仰

- 自分が死んだらどうなるのか思い悩む



宗教は「納得」を与えてくれる

釈（2014）、阿満（1999）



②世代間で継承される信仰

抜けだすことが難しい原因

伝統的社会では「家」単位での
信仰が多かったため

- 新興宗教にも多くみられる

戸頃 (1966)

③ 孤独からくる信仰

- 現代社会に最も多い信仰の始まり方

中世

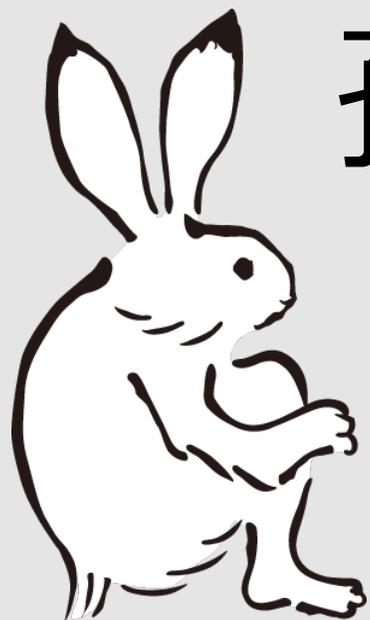
- ・ 地域社会のルール縛られ、不自由
- ・ 人と人との関係が濃密

現代

- ・ 都市化が起こる
- ・ 伝統やコミュニティに縛られず、自由
- ・ 伝統的社会より孤独感が高まりやすい

フロム (1951) 、 釈 (2014)

③ 孤独からくる信仰



孤独



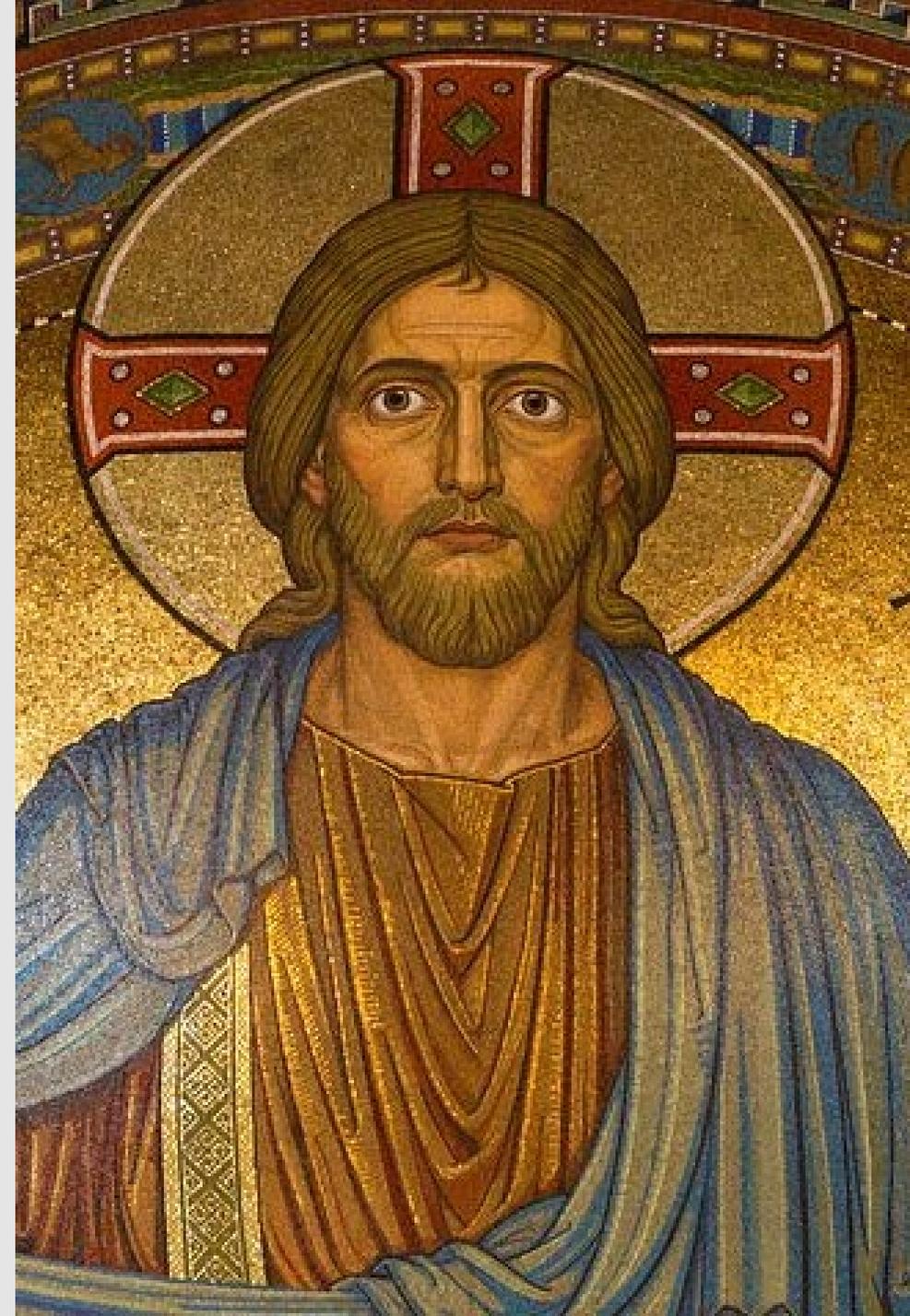
宗教

よりどころ
を提供

廣中 (2013)

研究の結果

信仰のはじまり方には色々あるものの、多くの宗教を信仰する人々は自分の心を支えてくれるよりどこかを求め信仰の対象をつくっている。



引用文献

- ヴィクトール・フランクル『夜と霧』（みすず書房,1946）
- 島田裕巳『なぜ人は宗教にハマるのか』（河出書房,2010）
- 阿満利麿『人はなぜ宗教を必要とするのか』（筑摩書房,1999）
- エーリッヒ・フロム『自由からの逃走』（東京創元社,1952）
- 釈徹宗『宗教は人を救えるか』（角川新書,2014）
- 戸頃重基『近代日本の宗教とナショナリズム』（富山書房,1966）
- 廣中直行『依存症のすべて』（講談社,2013）